

グリーントピックス

北海道立林業試験場

31

グイマツ雑種F₁のブランド種子生産

品種「グリーン」なみのブランド品を効率的に生産するため、平成6、8年に新たな採種園を訓子府採種園団地内に造成しました。これは、既存のカラマツ採種園を帯状に間伐し、そこに特定の優良グイマツクローンを列状に植込んだものです()。このクローンからできる雑種は、成長や幹の通直性が特に優れていますので、従来より優れた苗木が多く、しかも、周囲のカラマツが多い分、従来採種園産種子より雑種率が高くなるはずです。

結果はどうだったのでしょうか。平成12年に初めて試験的に球果を採取できました()。翌年から播種・育苗してみると、成長は従来型採種園産よりも優れており、また、雑種率も90%と、従来採種園産より30%高いことがわかりました(、図-1)。道ではこのようなブランド種子をさし木で約7倍の本数に増やして安定供給する体制を検討中です。

(林業経営部主任研究員)

